

創立20周年記念号



我孫子稲門会

田中愛治総長 揮毫

～集まり参じて手を携えて～

朝まだき、湖面に漂う水鳥の声・・・黄昏、暮れなすむ日の名残り・・・変わらぬ穏やかな佇まいに包まれて我が我孫子稲門会も恙なく創立20周年を迎えました。

去る6月8日には記念の総会を開催、ワセオケの愛称で知られる早稲田大学交響楽団の招致を実現して、我が稲門会、ワセオケの歴史にも残る令和初となる演奏会を催し近隣稲門会や市民の方々にも好評を博しました。

改めて我が稲門会に関わつて来られたまでの方々の献身に想いを致す時、その百彩に深い感慨を覚えすにはいられません。



会長 実松 靖之
(昭38年・政経)

2019年10月1日
第20号
編集発行
我孫子稲門会

皆様の細やかな力がやがて脈々と繋がり時代と共に受け継がれていき、只今の我が稲門会の礎となっていることに改めて深甚の感謝を表するものです。

現在、県下の錚々たる稲門会に比べ、経て来た星霜の些かの少なきにも拘わらず、今日烈々として他に肩を並べ得るに至った事も又、この20年稲門会に関わつて来られた夫々の方々のご努力の賜に他なりません。

野口、日吉、大塚の各氏、この怜悧にして果敢な歴代会長のもと、人々は集まり、組織を立ち上げ予定を組み、豊かな自然に恵まれたこの我孫子の地を愛で、同好の趣味に興じ、時に応じて我孫子市の発展や繁栄に幾許でも寄与して参りました。

我々現会員一同、今後共にの輝かしい伝統を引き継ぎ、更に次の世代へと襷を無事渡すべく、常に“至誠に悖る無かりしか”と自問致す日々です。

顧みるに我が稲門会創立以来の平成の20年間は決して

平穏な世の中ではありませんでした。

平成13年には米国多発テロ、20年にはリーマン・ショック、23年には東日本震災と立て続けの災厄、その中で人々が助け合い絆を深めていった事は人間の可能性を信じる大いなる縁となりました。その間、我が母校も奥島、白井、鎌田の各総長が豊々とバトンを引き継がれ、更に昨秋就任の田中愛治総長へと至り、今年、令和の時代を迎えて、都の西北の伝統を堅守しながら、世界に冠たる新たな早稲田を目指して確かな歩みを進めております。

今後、40周年、50周年を迎える遙かな日々、会員諸君が手を携えて我が稲門会を守りながら、変わらぬ手賀沼の夕日の美しさや菖蒲や藤の花を愛でる姿がデジャブとなつて目に浮かんで来ます。

そう、集まり散じながらもワセダの魂は此処、我孫子にも凜乎として永遠に生き続けるに違いありません。

皆々様の御健勝を祈り致します。

我孫子稲門会二十周年祝辞

早稲田大学常任理事

佐々木ひとみ



我孫子稲門会創立二十周年、心よりお祝い申し上げます。

ひとくちに二十と申ししましても、ちょうど本日の演奏会に参加した早稲田大学交響楽団の学生たちも二十歳前後です。二十年前に産声をあげた赤ちゃんたちが、多くの聴衆の前で堂々と演奏を披露するまでに、ご家族の多くの愛情とご支援を受けてきたように、

我孫子稲門会もまた本日を迎えるまでには関係者の皆様の多くの「努力があったからこそと、心から敬服申し上げます。ご存知のように、早稲田大学交響楽団、通称ワセオケは早稲田大学の中でも屈指の伝統と実績を持つサークルのひとつです。レベルも高く、

ステージで演奏する学生は豊富な経験も持っています。その学生たちが、指揮者の先生の合図を機に、一瞬にして心をひとつにし、自分たちの音の世界へ没頭してゆく姿は、大変感動的でした。二十歳前後で、一心不乱に打ち込めるものを持てることは、どれほど貴重で幸福なことか。真ただ中にいる本人たちは自覚していないかもしれません。

私はつい1年前まで、キャリアセンター長として日々学生の進路相談にのっておりました。こんなに優秀で、堂々たる早大生でさえ、学年があるにつれ、将来自分がどうなるか、先が見えず夢と不安が行き来する毎日を通じています。稲門会の皆様方も二十歳の頃お感じになったであろう「自分が何者か」という問いを、現代の学生たちも変わらず自問しています。「人は変われど」変わらぬ青春の懊悩なのでしょう。

我孫子稲門会の二十周年記念行事に、ワセオケの演奏会を企画されたというご英断には、稲門会の皆様の在学生への温かい愛情を感じました。その思いに応えるように学生たちが今だからこそ情熱あふれる音を奏で、それがまた会場の多様な世代の方たちが一緒に感動を共有している大変感動的な風景でした。

念行事に、ワセオケの演奏会を企画されたというご英断には、稲門会の皆様の在学生への温かい愛情を感じました。

その思いに、ワセオケの演奏会を企画されたというご英断には、稲門会の皆様の在学生への温かい愛情を感じました。

こうやって先輩から後輩へ、早稲田から社会へと何かを繋ぐ役割を稲門会が担うという新しい形を本日見せていただいた気がいたしました。今後ともますます我孫子稲門会が発展されますことを心より祈念しております。

校友会千葉支部長

松平 武史



我孫子稲門会創立二十周年を迎え、会員の皆様へ心からお祝い申し上げます。

日頃から千葉県稲門祭を始めとする県支部の諸活動につ

きまして、ご支援、ご協力を賜りまして誠に有難うございます。

また、先日総会の際の早稲田大学交響楽団の催しにつきましては、素晴らしい企画と演奏をお聞かせ頂きまして大変感動致しました。更には日頃から貴会の主催や同好会による諸活動につきまして、多岐に亘られておりますこと敬意を表します。

さて、千葉支部は支部規則で「大学校友会と県下稲門会の間にあって各稲門会の拡大発展を基本とし、相互の交流親睦、地域貢献、大学の発展への寄与などを目的とする」を定め、活動を続けております。

具体的の方針としては若手校友、女性校友の更なる組織化、校友会費納入率の向上推進、大学各種募金活動への協力支援などと共に、県下稲門会の活性化支援を重点活動としておりまして、各種行事や同好会活動の交流、催物の案内などについて支部が間に入ってお手伝いする事ができればと思っております。

特に11月24日(日)に開催します千葉県稲門祭は最大のイベントで、その目的は多岐に及んでおります。今年もまた我孫子稲門会の皆様には大勢の校友の参加をお願い致します。

大学では田中愛治総長が「世界で輝くWASEDA」を実現するという大学史上最大の決意と覚悟を表明され「たくましい知性」と「しなやかな感性」を土台に「研究の早稲田」「教育の早稲田」「貢献の早稲田」という三つの柱を立てられました。

この為に校友の皆様から大学が抱えている諸問題について大学に喝を入れて頂くのはとても有難いが、物心両面のご支援もぜひ頂きたいと話されております。混乱の時代を迎えた今、「集り散じて」の合言葉で活発な活動を展開して行きたいものです。

結びにあたりまして我孫子稲門会の更なる飛躍と共に、会員の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。二十周年、誠におめでとうございます。

我孫子稲門会二十年の歩み

翔け！「我孫子稲門会」

第二代会長 日吉 照輔
(昭35・商)



「我孫子稲門会」創立二十周年おめでとうございます。平成十二年に再発足して以来令和元年という新しい時代に丁度二十周年を迎えることができ、大変喜ばしいことです。

これもひとえに、我孫子稲門会会員、早稲田大学本部、校友会千葉支部、近隣稲門会、そして特に我孫子市民の皆様のご支援の賜と感謝致し御礼申し上げます。

先日二十周年記念コンサートには「早稲田大学交響楽団」による演奏会に会場を埋め尽くす程の一般市民の方々のご来場を頂きました。素晴らしい演奏に割

れんばかりの拍手とフラボー！の声も響き大盛況でした。

さて私達の住む我孫子は、手賀沼を中心に豊かな自然に恵まれ、かつては多くの文人や芸術家のやすらぎと制作の場でもありました。

手賀大橋から見る日の出や夕日は素晴らしく、そこに遊ぶ白鳥の親子を二羽、二羽・・・と数え、また若葉の頃や桜が満開の湖畔は、小鳥のさえずりも聞こえ華やかで楽しい季節です。

藤の花も風に揺れて香り、夏は蓮見船で行く湖面に開く蓮の花の美しさに涼を感じ、紅葉した木々や雪景色の湖畔も風情のある良いものです。

このように四季折々を楽しめる我孫子、人々の心を豊かにしてくれる我孫子に住む幸せを感じております。

私達の「我孫子稲門会」はこのような素晴らしい我孫子に誕生したのです。

同じキャンパスで青春を送り、腕を振って歌った校

歌の・・・

あれ見よかしこの常磐の森は心のふるさとわれらが母校

集り散じて人は変れど仰ぐは同じき理想の光

・・・と、あるように母校早稲田大学を「心のふるさと」と思う私達が縁あってこの我孫子の地で暮らし、めぐり逢ったのです。

早稲田大学と我孫子をつなぐ絆、それが「我孫子稲門会」だと思います。

この絆を大切に、更なる親睦を深め、校友の輪を広げ、令和の時代を翔いてほしいと願っております。

ポストマンの皆様へ感謝

第三代会長 大塚 紀年
(昭38・商)



我孫子稲門会の創立20周年、まことにおめでとうございます。また過日の創立20周年記念総会や早稲田大学交響楽団による演奏会も成功裏に終えることができ、

ご準備ご協力をいただいた役員や会員の皆様のご尽力に改めて御礼申し上げます。

本会は平成12年6月に創立、以来今日まで会として地道な努力と会員の皆様のご協力により、現在は会員数190名余を数え、会が主催する総会・新年会のほか、九つの同好会と女子会が活発に活動、年一回の会報発行など、県下でもトップクラスの稲門会の一つにまで成長いたしました。

会員相互の懇親のほか、毎年の音楽会や講演会（10周年記念総会時の「稲門グリークラブ・シニア会と地元3合唱団との合同演奏会」、15周年記念総会時の「小和田教授の講演会」など）は地元への開放・貢献を考慮てまいりました。

このような我孫子稲門会の活動の礎となり、発展を後押ししてくれたのは、平成15年に導入した「ポストマン制度」が大きな要因の一つと考えています。

会員1200名を越す校友に対する総会新年会の案内や会員勧誘案内などを発送す

るためには、多大の郵送料を必要としました。

この悩みを総会に来賓として出席されていた井原理事（その後実践女子大学事務局長・理事長を歴任し今年4月に退任）に相談しましたところ、「ポストマン制度」を伝授されました。この制度は各地区（布佐、湖北、我孫子などの字毎）に地区委員（ポストマン）を置き、各種の案内などを直接会員や校友に届けるという制度です。

大勢の会員の皆様のご協力を得て、殆どの地区にポストマンを配置することができ、この委員のかたがたの長年に亘るご尽力により、会員や校友とのスムーズな連絡や交流ができ、現在の稲門会の基礎が築けたと考えております。創立20周年にあたり、改めてポストマンの皆様へ心から感謝申し上げます。

我孫子稲門会が、今後も時代の変化に柔軟に対応し益々発展することを心から祈念し、創立20周年のお祝いの言葉といたします。

ワセオケと私

会長 実松 靖之

私がワセオケの演奏を初めて耳にしたのは大学の入学式であった。高校時代には些か背伸びもして音楽喫茶辺りで盛んにクラシックのレコードを聞いたものだったが、初めて耳にしたワセオケの艶やかな弦の音と華やかな管の音は早稲田に入学出来た

喜びと相俟って今も鮮やかに耳に残っている。

時を経て2018年初頭、我孫子稲門会20周年記念の催し物を伺にしようかと役員会で話題になった時、真つ先に私の頭に浮かんだのは我孫子にワセオケを呼びたいという謂わば執念とも妄想ともいふべきものであった。ワセオケOBである会員の

深津さんにアドバイスを受けた。その18年度ワセオケ代表の齊藤君、副代表で19年度代表の宮田君や他の学生諸君と打ち合わせやメールの遣り取りはステイジ、男女控え室のやり取り、楽器運搬、昼食等、一年半の間、多岐に亘った。中でも費用の問題は時として我々の心臓を大いに寒からしめた事を覚えている。

その間、本来の勉強、更に就職試験などを控えながら何度か我孫子まで来て呉れた学生諸君、本当に有難う。君たちの好意は忘れない。



指揮:寺岡 清隆 氏

早稲田大学文学部を卒業後、桐朋学園大学を経てウィーン国立音楽大学指揮科で学ぶ。ウィーン在住。

多くの難儀した打ち合わせの中で私の我儘を聞いて頂いたものがある。演奏曲目にブラームスの「大学祝典序曲」を加えてアンコールに「早稲田の栄光」と、最後に斉唱のための校歌を演奏してと。

受験時代と入学式で聞いた曲、神宮球場の早慶戦で勝った時に歌った曲、在ウィーンの寺岡先生の快諾を聞いた途端、胸が熱くなった。

そして6月8日、チケット完売、席ないかの問い合わせ頻りの中、総勢120名の団員が来我、それに我々の熱意に応えて遙々ウィーンから駆けつけて頂いた寺岡清高先生の指揮で交互に熱演を披露する事となった。

ワグナーに始まり最後のベートーベン、曲の進行と共に演奏に歯切れが増し、令和初のワセオケの演奏は、学生交響楽団の雄として十分の出来映えとなった。

「第五」の終わった後に、あちこちから響くブラボーの声、聴衆の殆ど全員斉唱となった「都の西北」、感涙に噎ぶOB、OG。演奏会に関わって頂いた全ての諸氏に改めて深甚の感謝を。そして早稲田大学交響楽団よ、永遠なれ!

記念コンサートの

舞台袖から

村上 智雅子 (昭43・文研)



暗い舞台袖8センチの隙間から見ると、渾身のタクトを振る寺岡氏の揺れる髪と額の汗が光っている。周辺の五、六人の弦楽の学生達や少し上段の宮田団長の真剣な眼差しも垣間見えた。限られた空間からのオーケストラ鑑賞は、映画のワンシーンを

見るような迫力もあり、視野が狭い分だけ想像をかき立てられ、味わい深いひとときを得た。

第一部は、花束贈呈担当の木野さんと共に客席から「ニュルンベルクのマイスターシンガー・前奏曲」などを聴くことができ、幸い。まずはアップテンポな金管、木管、弦楽、打楽器の重層的な音の響きに魅了された。

第二部は、花束贈呈のため舞台袖に待機。陰アナウンスの田中さんは始めから舞台袖に控え、メリハリの効いたお声でテキパキと説明され、さすが元アナウンス部出身。指揮者お付きの女学生達はずっと立っただけ、一

曲終わることに戻られる寺岡氏も汗を拭う程度で、お座りにならなかった。

そして「運命」が始まる。昔からお馴染みの曲で、正直あまり好きでなかった。ところがこの日の「運命」は、私の心を揺さぶった。豪快でありながら、なんと流麗で温もりのある演奏なのだろう。指揮者は時に大胆に時に軽やかに、全身で学生達に向き合っていた。

運命は扉を叩くだけでなく、扉を開いて、苦しみを乗り越え喜びへ至る道へ、一歩足を踏み出すものであるとぐっと背中を押されたような感銘を受けた。

万雷の拍手が会場内に鳴り響いた。「ブラボー」の声も連呼された。これだけ多くの演奏者と観客が感動の坩堝と化する。私もこらえていた涙がふっと溢れた。今日に至るまで、様々な会議と学生達との懇談を重ねてきた。実松会長の牽引力と小池幹事長と高谷副幹事長の実践力、横須賀副会長と海老原副幹事長のサポート力と皆のすべての努力が報われた。こんなにも感極まる音楽を届けてくれた逞しい指揮者と、演奏だけでなく裏方としてもしっかりと働いてくれた頼もしい早大生に、心から感謝。

会員近況

早稲田の学生が医学を指すに至った理由(ワケ)

西川 将巳 (昭59・文)



私は、早稲田大学第一文学部(心理学専攻)を卒業してから医者になった、変わり者である。思い起こすに、なぜ私が、医学を志そうと思ったかと言っと、ちょうど早稲田の心理3年生の頃のこと。日本のCerebral Dominance (大脳半球優位性)研究の草分け的な存在であった、角田忠信先生(元東京医科歯科大学教授)のご著書を読んで、是非、自分も脳の研究をしてみたいと思ったのが馴れ初めである。早稲田の指導教官であった小杉正太郎先生に相談に行ったところ、快く紹介状を書いて下さった。早速それを持って、医科歯科の角田研究室の門戸を敲いたところ、「是非、いらっしゃい」とのこと。それからというもの、早稲田には殆ど行かず、医科歯

科の研究室で、脳波実験三昧の生活を送った。心理学からは少し心が離れ、「是非とも、人間の“脳”の研究をしたい」、「このころ」を研究するには、脳の研究は不可欠である」と、そのことばかりを考えていた。4年生の初夏だったと思う。小杉先生に、「早稲田を辞めて、医学部へ行きたい」と話したところ、その時始めて、先生から叱られた。「行くのなら、ちゃんと早稲田を卒業してから行きなさい」と。医科歯科で取りためた研究データをもとに、「両耳分離聴課題を用いた聴覚性誘発電位における大脳半球優位性」というテーマで卒論に取り組みむと同時に、医科歯科大を目指して受験勉強を始めたのであるが、ちょうどその頃、早稲田の心理の大先輩で、当時、東京都神経科学総合研究所で、やはり脳の研究をされていた杉下守弘先生(杉下先生はその後、東京大学の教授になられました)が、平成15年ご退官。のころへ相談に行き、「医学部に行つて脳の研究をしたい」とお話ししたところ、「君、それなら“脳研”のある東大に行くべきだ」と唆されたのである。そんな訳で、東大医学部を目指すに至った。考えてみれば短絡的な話であるが、当

時は、まだ若く、私も生真面目であつたのだろう。

東大卒業後は、“こころ”と

“脳・身体”の相関「心身医学」を研究すべく「心療内科」に入局。脳機能画像研究を行うために、カナダのMontreal Neurological Instituteに留学もした。その後、縁あって、今は川村で“心理師”を養成するような仕事に専念しているのだが、そんな話まで書いてしまうと、大きく字数を超えてしまいそうなので割愛する。しかしながら、今、改めて振り返ってみると、自分が、ここに、こうして、“心理学”と“医学”の架橋のような仕事をさせて戴いているのも、ひとえに、あの時の、角田先生の御寛容と小杉先生の御一喝、そして杉下先生の御助言のおかげであつたのだなあと、感慨深く思い出される。君恩海誓。この場をお借りして、若輩者の私に折々の道標を示して下さい。恩師たちに、心からの感謝のこ

とばを申し上げます。

稲門医師会・稲門医学会 理事
川村学園女子大学大学院
人文科学研究科長・心理学専攻
教授

杉原千畝ゆかりのリトアニアで桜の植樹を!

大谷 光弘 (昭46・商)



旧領事館
執務室にて

2017年5月リトアニア共和国カウナス市に杉原記念館を訪ねた時のこと、上品な3人の御婦人が、旧領事館執務室に置かれた杉原千畝氏の写真に涙を流しながら、手を合わせているのを見かけたのです。杉原氏が両親に発給したヴィザが無ければ自分たちは存在しなかったとして、感謝の意を表するために訪れたアメリカ人でした。ある程度の知識はあつたものの、現実の場面に会つて杉原氏の偉業を再認識したのと同時に、それを広く世界の人々に伝えていく、カウナス市に何らかのお礼をしたいと考えていました。

自由には歩けなくなるほど賑わうとのことでした。そこで杉原記念館の館長に、カウナスでの桜の植樹を提案したのです。交渉を重ねた結果、カウナス市による「カウナス日本友好公園」の建設が決定され、一方、日本側は資金調達やツアーの準備からMOを窓口にして、小生が実行委員長として推進する体制を整えることが出来ました。そして2018年9月カウナス市長や日本大使を始め多くの関係者、市民の参加のもと公園の開園式、桜植樹式の日を迎えたのです。カウナス市に対する熱い思いや夢が叶った感激をカウナス市民に伝える機会も与えて頂きましたし、公園のガイド板には支援者として“早稲田大学校友有志”を残すことも出来ました。



植樹式でのスピーチ

最後に本件に関し、ご支援賜りました稲門会の皆様に、改めて御礼申し上げます。

三代続く早稲田OB

加藤 高一 (昭33・商)



私の孫が今年三月、早稲田大学理工学部を卒業し、これで当家には、三代続いて早稲田OBが誕生しました。孫の卒業祝いと社会に羽搏く孫を激励するため、早速家族で本人を囲み祝杯をあげました。

さて私の在学時を回顧しますと、まず脳裏に浮ぶのは専攻した林ゼミ(統計学)のことです。林文彦先生には学業面だけでなく広範囲に亘り御指導頂きました。先生のお宅に仲間とお伺いした時には、深夜に及ぶこともありました。

大学卒業後は林先生の主宰する「文友会」に入会し、先輩後輩の方々と交流する機会ができました。当会の定期総会では、政財界など著名な方を講師にお招きして講演会が開催され、いつも大盛会でした。

大学を出て六〇余年、リタイアして三〇年余りになります。今後は無理をせず引き続き地域に貢献していきたいと思っています。

卒業六十年の昔話

松島 洋 (昭34・政経)



大学を卒業したのは昭和34年(1959年)。60年安保の前年、学生運動は授業料値上げ反対運動くらいで学内は静かであったように思う。

現役4年の時75周年を経験し、その時の新築なった記念会堂での記念事業については、以前の会報に書いた記憶がある。

早慶戦での安藤投手の5連投や平成天皇(皇太子)ご成婚、60年安保の大闘争は卒業後であり、卒業後家業を継いで布佐に暮らしていた私にとって、テレビも普及時代で、東京から40kmほどの布佐等では、特に安保闘争について緊迫感を感じていなかったように思う。

通学には成田線でSLもあり上野まで1時間20分ほどの時代で、駅は高田馬場、御徒町から39番の都電、飯田橋からの15番の都電で3通り、2時間余の通学時間であった。上野発20時50分がSLでの成田線の終電で、これも今では語り草の一つである。

早稲田と我、孫と子

高谷 一之 (昭40・商)



稲門会では新顔ですが、標記の卒業年次のおり後期高齢者です。定年退職後は、市内多目的ホールでのパート勤務、NPO法人やボランティア団体あるいは混声合唱団での活動に精を出し、これまで稲門会と疎遠になっていたことは否めません。

この度の早稲田大学交響楽団演奏会に当たり、コンサート運営の経験を買われて実松会長から声を掛けていただき、開催準備の会議に参加するうちに取り込まれたという次第。

願えば昨年の総会・懇親会に久しぶりに参加したのも、実は、都内在住の末の孫が中学受験で、所謂「渋幕」との択一の末に早稲田中学に入学したことで、ジイさん大いに喜び、早稲田への想いが強まっていたからでした。初め、自身の趣味で人に語れるのは、永年に亘り収集したクラシック&ジャズの名盤CDが五千枚近いことくらいですが、これとて終活として息子からも断捨離を迫られている昨今です。

早慶明三大学マンドリン演奏会

片倉 武 (昭42・政経)



比留間賢八が二度の米欧留学を終え、帰国の際に日本に初めてマンドリンを紹介したのは1901年のことです。

さて、マンドリンが上陸して程ない1910年、東京では最初に慶應義塾大学に「マンドリンクラブ」が誕生、その年の秋には我が母校に「マンドリン楽部」が創設されました。

本年、当会の20周年記念に招聘した、早稲田大学交響楽団の創立が1913年ですから、当時の西洋音楽の導入には、まずマンドリン音楽が関わったと言っても良いと思います。そして早慶から遅れること13年の1923年に、今度は明治大学に「マンドリン倶楽部」が生まれまし

た。このクラブは、かの古賀政男が創設に参画したこと、古賀がその後コンピアレコードの専属作曲家として、歌謡曲に携わったことで、マンドリン音楽は一気に大衆化し、庶民の間に広まってきた。

私の学生時代、毎年5月になると「早慶明三大学マンドリン演奏会」が開催され、各大学の特色あるステージが披露されました。私の代は特に三大学の仲が良く、今でも私が主宰する「ヴィヴァ・マンドリーノ」の演奏会に慶應、明治の友人が賛助出演してくれることを無上の喜びと感じております。

久遠の理想の基に

浜崎 慶子 (昭43・文)



早稲田入学に際して一番心惹かれたのは、大隈重信初代総長の五訓だった。

一、物事を楽観的に見よ。二、怒るな。冷静に物を見よ。三、むさぼるな。四、愚痴をこぼすな。五、世の中の為に働け。

“言うは易く 行ふは難し”——この五訓を座右の銘として、一日一日の時間を大切にしながら生きてきた。そのお蔭で、歴史は螺旋状で進化すると思観的に考える習慣がついた。

現在我孫子稲門会の活動を通じて、地域の活性化に携わる諸氏の行動の質の高さに影響を受け得た真善美に対する知識や体験を、我は言うに及ばず、子どもや孫に伝えていきたい。そうして、理想としては、当時の白樺派の御三家が影響を受けたメーテルリンクの楽観思想を我孫子の地に蘇らせたい。その手段として、アニメーターである川田明彦氏と令和元年に立ち上げた「あひこ ぬりえ」を通してどう展開していくかを今期待！

早稲田と私

卒業五十周年に佐賀を訪ねる

小田金 由太郎 (昭45・商)

本年八月、福岡への私用の折

佐賀市の大隈重信侯の生家、記念館、佐賀城本丸歴史館を訪ねました。大隈侯が若い頃暮らし、生家は立派な武家屋敷で国の貴重な史跡であり、記念館は大隈侯の人間像、人間愛を追求して生誕125周年の記念に建築され重要文化財に指定されています。幕末の鍋島藩は、長崎に近く西洋の近代的な知識を集積していました。大隈侯は鍋島藩弘道館で学び、その後長崎で英語を習得し海外に広く目を向けていました。豊かな経験に基づき、大蔵卿、外務卿、二度の総理大臣を歴任し日本の近代化の礎を築いた事は周知な事です。展示物には大隈侯の義足もあり、大隈侯の足跡を示す貴重な資料が整然と陳列されています。又、館内流れる「都の西北」は昭和四十年代に学園生活を送った当時が思い出され、早稲田大学への愛着が深まりました。

卒業後五十周年の節目の年に、大隈侯の偉大な足跡をたどる事に、何か特別な因縁を感じました。



先輩に感謝また感謝!!

横須賀 晃 (昭46・政経)

卒業後金融機関に就職しまし

たので海外店・地方店・本部を含め併せて10ヶ店を渡り歩きしました。主に大企業取引担当でしたのでどの会社の財務部・国際部にも早稲田の先輩方がおられました。皆さん素晴らしい先輩方ばかりで若輩で生意気な後輩を可愛がってくださり、時にはそつと貴重な情報を耳打ちしてくれたり、様々な取引を成立させるべく尽力して頂きました。また、部下が大チョンボをしてしまい社長に謝りに行った時など、いきなり「君、早稲田か」で全て終り、それをきっかけにメイン取引にしていた事もありました。

学生時代は気の置けない友達に恵まれ、今でも多くの友人と付き合っています。特に心酔すべき先生にも巡り合えず只漫然と4年間を過ごして卒業しました。然し乍ら社会に出てからは世界各地で素晴らしい先輩方に助けられ「さすが早稲田!!」だと実感した会社人生でした。



十人十色・・・

早稲田と最近の私

松本 善夫 (昭53・政経)

9年前、ある出来事をきっかけに、当時の仲間と三十年振りに早慶戦の「応援」と「コンパ」を行ってみました。会ってみれば誰もが気持ちは昔のままと感激。その後、春秋の恒例行事として続けてきています。

時に大学の散策も行い、〇〇号館の近代化に驚き、周辺では、「メルシー」があるとか、「三朝庵」がなくなったとか、時代の流れも感じています。

学生席での応援の変化にはついていけず、最近では、一般内野席での「早慶讃歌」、「校歌」、「紺碧の空」と、限定応援になりつつありますが（「早稲田の栄光」も歌いたい）、我々以上の年代のグループも数多く見受けられ、同じ時期に早稲田で学び（?）、過ごした仲は、何十年経つても絆があることを実感し、今後も続けていけることを願っています。



所沢キャンパスでの体力測定

木野 綾子 (平6・政経)

この6月に、WASEDA

S Health StudyのDコース（スポ科主催の体力測定）に参加してきた。

在学中も所沢キャンパスは存在したが、実際に行くのは今回が初めて。スクールバスの中で、外見に気を遣わない孤高のワセジョと、赤裸々な合コンの話で盛り上がりつついる男子学生の群れを見て、思わず「集まり散じて人は変われど・・・」と口ずさんだ。

体力測定は多岐にわたり、しかも測定後1週間は万歩計を装着して睡眠や食事など1日の記録をつけねばならないという。最後のサイクリングで息を切らせて「応募しなきゃよかった」と思い始めた時、係の人に「昨年、我孫子稲門会から集団で受けに来ましたよ」と言われ、思わず足に力が入った。

現役学生も若いのが、我が稲門会の先輩方も若い。疲れたけれど清々しい一日だった。



私の大学時代

関 俊彦 (平10・教育)

11号館の地下にあった早稲田

大学サイクリングクラブが、私の大学時代そのものです。慶應のサイクリングクラブに所属していた父親の影響もあり、迷うことなく入部を決めました。体育会自転車部から独立した男子のみのクラブだけに活動は結構ハード。ほぼ毎月、テントや調理器具を積んで、キャンプしながら、仲間とともにダート走り、峠を攻めました。

印象に残っているのは2年生の夏期合宿。スタート地となる敦賀まで自走し、そこから乗鞍など中部地方の山岳地帯を走破。合宿から戻ってきたあと、あまりの色の黒さに、周囲からじろと見られたことが記憶に残っています。また、学祭の時期には、同志社大学と合同合宿を行うなど、自転車を通じて多くの仲間と交流を深めることができました。最近、同期からお声がかかり活動を再開しましたが、学生時代と違ってなかなか時間を取れないのが悩みです。

我孫子稲門会では様々な行事を実施し、年代を超え会員相互の親睦を深めています。最近の主な活動を報告します。

ゴルフ会

平成12年我孫子稲門会創立後、ゴルフ会も同年秋に活動を開始し、現在に至る。会員数は当初36名、以後40名以内で推移し、現在30名。同好会独自の活動のほか、「千葉県下稲門会」、「東葛・取手地区稲門会」、「六大学千葉OB会」、「取手・我孫子・柏稲門会（年末）」、「我孫子稲門会・三田会等、外部のゴルフ大会とも交流し親睦を深めている。

北見 正賢（昭39・文）

囲碁会

19年前、故山口達郎先生を会長に発足した、稲門囲碁会は現在19名の会員を擁しております。毎年6月に行われ、200名以上の早稲田OBが集う、オール早稲田囲碁大会への参加、他に千葉県大会、柏稲門会との交流戦に、月例対局は第1、第3土曜日の午後を実施、また夏には、

ウナギ大会。冬にはすし大会等で親睦を倍増しています。

囲碁は、AI対局が盛んですが、もう人間を越えております。人の脳で考え、失敗するところに進歩があるので、失敗をしない機械（コンピュータ）との比較は、もう終わりです。

悩みは、どこも同じ、高齢化です。若い人達にスマホを止めて、囲碁を頭で考えようと言いたい。

山口 宏（昭37・政経）

麻雀会

お陰様でこの8月で62回目の麻雀会開催を迎えました。現会員の18名が月一回5時間のプレイを楽しんでいます。

プレイ中は、皆さんボケは控えめでも、お惚け・三味線が盛ん、心の内の付度は難しい。加齢と共に益々老練で、勝利への意欲は衰え知らず、可愛いシニアとはいえません。

皆さん生まれ故郷は異なりますが、自然豊かな我孫子に來ら

れ、現在は終の棲家としての生活を満喫されておられるように見受けられます。又皆さんの現役時代の職種は多種多彩、麻雀以外の話も種々お聞きでき刺激も受けます。ボケを抑えつつ楽しく末永く一緒に麻雀を楽しめれば幸いです。

佐々木 宏三（昭46・商）

カラオケ会

カラオケ会は、以前あったコスモス会を基として2013年7月に発足し、既に38回を迎えています。

二ヶ月に一回の歌会を重ねているうちに、皆さんその人らしい歌声と曲選びでレパートリーを増やしています。

カラオケバンバン我孫子緑店で毎回1時半から4時半まで、時の過ぎるのを忘れる程、和氣藹々と楽しんでいます。

カラオケは、私の趣味でもありますが、この会をキッカケにして「食べ歩き」や「史跡巡り」に参加し、我孫子稲門会での交流を広げることが出来ました。

ともかく、皆さん、歌が好き

な人ばかり、演歌を中心にムード歌謡あり、シャンソンあり、懐メロあり、青春歌謡ありで盛り上がっています。

歌うことが好きな方、歌っている時が幸せと思う方は、上手下手にかかわらず、奮ってご参加下さい。

永田 堅志郎（昭40・商）

食べ歩き会

第十回「食べ歩き会」が、梅雨晴の令和元年六月二十六日開催された。参加者十二名が車に分乗、守谷市板戸井のイタリヤ料理の店「桜坂ビバーク」に向かう。

高台にあるお店の庭の木陰で、予約時間迄の三十分余り待つ事になった。田植が終わって一ヶ月ほど、稲の穂が未だ出ていない青田が眼下に広がって清々しく、まさに日本の夏を代表する美しい田園風景である。吹く風も心地良く、蝶や赤とんぼの仲間の夏茜が飛び交い、非日常の世界へと私たちを誘ってくれた。

色とりどりのパスタやピザの中から好みの一品を選び、それにサラダ、人參ジュースを添えた美味しいランチに舌鼓、会員たちの親睦を深める会話の輪が

拡がる。楽しい午後のひと時であった。終りに、拙句を一つ。

青田風吹き上ぐる丘夏の蝶

佐藤 厚子（昭40・商）

女子会

今から十年程前、柏稲門会総会に伺った折に、女子会員の多さに目を見張りました。女子会員が増える秘訣を伺ったところ、「飲食を共にして談話を楽しむこと」と言われ、先ずは実行。

平成二十三年に我孫子在住の女子会員全員にお便りしましたら、何とか八名の方が参集下さいました。上は昭和三十三年卒業の方から、下は昭和四十四年の方まで、駅前の清雅な「茶処竹山」で屈託のない話題に花を咲かせました。以来、「はなせん」「ランコントロール」などで回を重ねることに参加者も増え、自由闊達な談話の輪を広げています。

お蔭様で、お茶会、食べ歩き会、総会などに少しずつ参加する方も増え、感謝です。また、今年も第九回女子会に、常連の方から新しい方まで、奮っての御参加をお待ちしています。

村上 智雅子（昭43・文研）

2019年度総会報告 盛大に創立20周年を祝う

我孫子稲門会 創立20周年記念 2019年度総会は6月8日(土)、第一部・記念総会、

第二部・記念コンサート、第三

部・記念式典・懇親会の三部構成でイトーヨーカドー・アビイ

ホールとけやきプラザ・ふれあいホールの二会場で開催された。

アマチュア・クラシック界の雄、早稲田大学交響楽団が我孫子にやって来るということの前

評判を呼び、千円のチケットが早々に完売した記念コンサート

は、会場一杯、540人の市民を前に寺岡清高氏の指揮による

素晴らしい演奏が披露され、万雷の拍手がいつまでも鳴りやま

なかった。



記念コンサートの告知チラシ

記念式典・懇親会は星野順一郎我孫子市長、佐々木ひとみ早稲田大学常任理事、松平武史校友会千葉県支部長や近隣稲門会

から多数の来賓が出席して会員と共に創立20周年を盛大に祝った。

第一部 記念総会

アビイホール11:30～12:00

記念総会は冒頭、実松靖之会長が挨拶し、創立20周年を全員で盛大に祝いたいこと、今後も同好会活動などを通して会員相互の親睦を深め、地域への貢献を目指す運営方針について述べた。議事は2018年度事業報告・同収支決算および監査報告承認の件、2019年度事業計画・同収支予算承認の件、2019年度役員改選承認の件の三議案を満場一致で可決して総会を終了した。

第二部 記念コンサート

ふれあいホール13:00～15:00

寺岡清高氏の指揮による早稲田大学交響楽団の演奏はワーグナー「ニルンベルク」のマイスター・ジーンガーより第一幕への前奏曲で始まり、ブラームス／大学祝典序曲と続いた。休憩の後、ベルリオーズ／『ファウストの劫罰』より「ラコッツィ

行進曲」、ベートーベン／交響曲第5番「運命」と続いた。寺岡清高氏とコンサートマスターに会員より花束贈呈が行われた。アンコールでビゼー／カルメン第一組曲より前奏曲、応援歌「早稲田の栄光」の演奏と続き、最後は早大OBでもある寺岡先



寺岡清高氏の指揮による
早稲田大学交響楽団の演奏

生が皆で歌いましょうと呼びかけ、オーケストラをバックに校歌「都の西北」を声高らかに斉唱し終了した。尚、我孫子市教育委員会との共催。

第三部 記念式典・懇親会

アビイホール15:30～17:30

記念式典は来賓に指揮者の寺岡清高氏や早大生達も加わり、会員と合わせて総数83名が出席し、記念コンサートの余韻が残る中、祝賀ムード溢れる式典となった。実松会長の挨拶と来賓紹介があり、早稲田大学・佐々木常任理事と岡崎地域コーディ

ネーターから母校の現況などについて詳しく報告。続いて、校友会千葉県支部・松平支部長が祝辞を述べた。



各テーブルとも和気藹々の懇親会

懇親会に移り、日吉顧問の音頭で乾杯、なごやかな雰囲気です。料理や特別に取り寄せた冷酒「都の西北」やドイツワインを囲んで歓談が続いた。早稲田祭運営スタッフの募金活動、福引抽選、所用で遅くなった星野我孫子市長の祝辞、最後は全員で校歌を斉唱して20周年記念行事の幕を閉じた。

報告…幹事長 小池進一郎



2019年度役員名簿

個人情報保護の見地から
マスキング

2018年度収支決算

収 入	金 額	支 出	金 額
年 会 費	552,000	会 員 募 集 費 用	-
総 会 会 費	285,000	総 会 開 催 費 用	563,104
新 年 会 会 費	207,000	新 年 会 費 用	225,873
企 画 事 業 会 費	-	企 画 事 業 費	-
寄 付 金 収 入	30,000	会 報 発 行 費	17,400
祝 い 金	120,000	部 会 補 助	20,000
受 取 利 息	3	支 部 活 動 費	42,000
当期収入合計(A)	1,194,003	交 際 費	134,890
前期繰越収支差額(B)	224,347	通 信 費	38,081
収入合計(C=A+B)	1,418,350	事 務 費	12,020
		会 議 費	23,500
		交 通 費	15,535
		事 務 用 消 耗 品 費	35,409
		寄 付 金	50,000
		支出合計(D)	1,177,812
		収 支 差 額 (E=A-D)	16,191
		特別勘定繰入(F)	200,000
		繰越収支差額(B+E-F)	40,538

2019年度収支予算

収 入	金 額	支 出	金 額
年 会 費	570,000	会 員 募 集 費 用	20,000
総 会 会 費	420,000	総 会 開 催 費 用	470,000
新 年 会 会 費	240,000	新 年 会 費 用	240,000
企 画 事 業 会 費	30,000	企 画 事 業 費	30,000
寄 付 金 収 入	-	会 報 発 行 費	20,000
祝 い 金	120,000	部 会 補 助	40,000
受 取 利 息	10	支 部 活 動 費	40,000
当期収入合計(A)	1,380,010	交 際 費	120,000
前期繰越収支差額(B)	40,538	通 信 費	40,000
収入合計(C=A+B)	1,420,548	事 務 費	10,000
		会 議 費	20,000
		交 通 費	15,000
		事 務 用 消 耗 品 費	35,000
		寄 付 金	50,000
		支出合計(D)	1,150,000
		収 支 差 額 (E=A-D)	230,010
		特別勘定繰入(F)	80,000
		繰越収支差額(B+E-F)	190,548

* 20周年事業特別会計収支予算は総会資料に記載のとおりです。

地区別校友数・会員数・地区委員

地 区	校 友	会 員	地 区 委 員
布佐	21	5	個人情報保護の 見地から マスキング
布佐西町	2	1	
都	1	0	
布佐平和台1丁目	7	0	
布佐平和台2～7丁目	27	8	
南新木	8	1	
新木	9	1	
新木野	24	1	
下ヶ戸	12	1	
古戸	4	0	
中里	7	0	
日秀	5	2	
中峠	28	3	
中峠台	6	2	
都部	3	1	
岡発戸	5	0	
湖北台1～5丁目	34	4	
湖北台6～10丁目	34	4	
栄	20	4	
泉	30	4	
天王台	57	13	
東我孫子	28	8	
高野山	37	6	
若松	38	6	
寿	38	9	

「校友」は2019年4月10日現在の早稲田大学校友会名簿

「会員」は2019年10月1日現在の我孫子稲門会名簿

地 区	校 友	会 員	地 区 委 員
本町	5	0	個人情報保護の 見地から マスキング
緑	17	3	
白山1丁目	31	8	
白山2丁目	19	0	
白山3丁目	27	5	
船戸	28	6	
台田	23	3	
久寺家	29	8	
つくし野1丁目	25	3	
つくし野2丁目	21	2	
つくし野3丁目	57	9	
つくし野4丁目	7	0	
つくし野5丁目	18	8	
つくし野6丁目	25	3	
つくし野7丁目	20	7	
並木	42	10	
我孫子1～4丁目	100	13	
我孫子(上記以外)	3	0	
根戸	32	0	
青山	4	0	
青山台	62	12	
南青山	1	0	
柴崎台	24	7	
柴崎	3	2	
市外(東京、松戸、柏)		7	
合 計	1,108	200	

我孫子稲門会 会員名簿

(2019年10月1日現在 200名)

個人情報保護の見地から

マスキング

我孫子稲門会事務局

個人情報保護の見地から
マスキング

《年会費納入のお願い》
会報発行や、総会、新年会などのご案内並びにその他事業など我孫子稲門会の諸活動は皆様会員の年会費により賄われています。
2019年度の年会費未納の方は、同封の郵便振替用紙により12月末日までにお振込み頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

この会報の編集は、ここ数年、毎回担当者が交代しています。本号は稲門会に遅れてやってきた(別稿のとおり)高谷が担当し、前任の横須賀副会長の指導のもと編集ソフトのガイド本と首っ引きで試行錯誤を繰り返しました。脱稿した後不具合が散見され汗顔の至りです。どうぞ、恕の心で接していただけますようお願いしております。

編集後記

写真でふりかえる我孫子稲門会



2008年9月の「ゴルフ会」(江戸崎CC)



2011月年11月の「お茶会」(アビスタ和室)



2013年6月の「囲碁会」(市ヶ谷・日本棋院)



2014年5月の「旅行会」(富士本栖湖リゾート)



2015年の新年会・校歌斉唱(鈴木屋)



2017年11月の「史跡巡り会」(板橋・遍照寺)



2018年11月の「女子会」(我孫子・ランコントロール)



2019年8月の「麻雀会」(麻雀グリーン)